



# 桐生織物を世界に発信 ファッションに新たな気流を創造

## ファッション“新気流”を起こす会(荒島スミ子氏)

1300年の長きにわたり、ものづくりへの熱い想いと確かな技術で優れた織物を世に送り出してきた織都・桐生。いつの時代も、職人たちの魂と技が大きな気流となって桐生を支えてきた。「ファッション“新気流”を起こす会」代表でファッションデザイナーの荒島スミ子氏も、その気流を身にまとい、織都・桐生を全国に発信してきた一人である。現在は第一線を退き、年1回の作品展を通して桐生の新しい織物との出会いや、人との交流を楽しんでいる。現役時代は東京と桐生をしばしば往復し多忙を極めた。桐生を拠点としながらも全国を舞台に活躍し、社団法人日本デザイナークラブが主催する年2回のファッションショーには毎回出品し、数々の優秀賞、2度の全国最優秀賞(内閣総理大臣賞)受賞というデザイナーとして輝かしい経歴を持つ。

デザイナーとして常に新しい気流を生み出してきた荒島氏は、1996年に桐生からファッションの新潮流を起こすべく、桐生織物のデザインコンペティション「テキスタイル in 桐生」を主催。織物組合を通して各社から毎回120点余の生地提供を受け、服飾系の学校や大学にサンプルを配布し、デザイン画を募集。国内外からの応募総数は年々増加し、最高2600点余が寄せられた。一次審査で50点にしぼり、実物製作された作品をファッションショー形式で最終審査し表彰する。ファッション協会がファッションタウン事業立上げの際に実施したイタリア先進都市視察に団員として参加し、姉妹都市であるヴィエッラ市の市長とも会見、コンテストの参加をお願いする。以後、10年間交流を続け、ヴィエッラからは毎回50点を超えるデザイン画が寄せられた。桐生発の国際的ファッションイベントとして定着し、桐生織物の国内外に向けたPRと併せて、ファッションを志す若い世代と産地・桐生との交流を促進した。(写真左はヴィエッラ市議場で市長と会見する荒島氏)



「ハートの無い仕事はやらない」と自身の信念を貫いてきた荒島氏。筋の通ったものづくりへの姿勢、そして内から湧き出るバイタリティーで桐生織物の発信に貢献し、産地・桐生と世界との懸け橋となっている。

第2回ファッションタウン大賞受賞(2002)

●場所／桐生市堤町3丁目2-6 (アトリエスミ内)

●電話／0277-22-2276